

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)Walkプロジェクト新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄						
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル	40dB			4.0	0.15	-	-	4.0
1.2 遮音	T-2以上			4.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				4.2	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能				5.0	0.61	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.39	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音	天井:岩綿吸音板、床:カーペット			4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				3.4	0.35	-	-	3.4
1 室温				3.8	0.50	-	-	
2 外皮性能	窓システム SC:0.36、U:2.82、面積:約6400m ² 外壁その他 U:0.81、面積:約20800m ²			3.0	0.38	-	-	
3 ゾーン別制御性				5.0	0.25	-	-	
2.2 湿度制御	ペリメータとインテリア別に空調ゾーニングかつ、冷暖の選択が自由			4.0	0.37	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.20	-	-	
3 光・視環境				3.0	0.30	-	-	
3.1 昼光利用				3.8	0.25	-	-	3.8
1 昼光率				1.8	0.31	-	-	
2 方位別開口				1.0	0.59	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.41	-	-	
3.2 グレア対策	5.0			5.0	0.28	-	-	
1 昼光制御	自動制御ブラインド(太陽光追尾システム)			5.0	1.00	-	-	
3.3 照度	全般照明方式 500lx			4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御	次世代人検知センサーによる照明の一灯制御(任意評定)			5.0	0.26	-	-	
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	天井裏を含め仕上げ材はF☆☆☆☆を使用			4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				2.6	0.30	-	-	
1 換気量	外気取入量30[CMH/人]以上			4.0	0.34	-	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.34	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	BEMSをクラウド型にして監視			5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙ブースにより十分な対策			5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.3
1 機能性				4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.32	-	-	
2 高度情報通信設備対応	NTT、QTnetの2社引込予定			4.0	0.32	-	-	
3 パリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準に則った計画			4.0	0.37	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.8m以上			4.0	0.32	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.32	-	-	
3 内装計画	コンセプト・機能・照明計画・バースについて配慮			5.0	0.36	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装仕上げは防汚性の高い仕上げ材 床面は水使用洗浄可能かつ、大きく異なる床材は未接近 ホコリの溜まりにくい設計 風除室の1、2次扉間は1m以上 外装は水の溜まらない配慮かつ、防鳥対策、防錆対策 外構等動線は極力段差無し			5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	十分なスペースの清掃用具室と管理倉庫を設置 フロアごとに掃除用具室、流しを設置 洗濯機設置スペースをB3階に確保 共用部通路30m程度の直径円にコンセント設置 屋上にゴンドラ設置 清掃用の適度な照度を設定 共用部から維持管理可能 システム天井採用			4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.6	0.30	-	-	4.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	免震により1.5倍			5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	免震構造			5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.2	0.30	-	-	
1 軸体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	カーテンウォール「テラコッタPC打込」:65年			5.0	0.20	-	-	

			3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床「タイルカーペット」:20年 壁「ビニルクロス」:20年 天井「合成樹脂エマールションペイント」:20年	5.0	0.10	-	-	
			4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出・厨房・浴室のダクトはステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板を採用	5.0	0.10	-	-	
			5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水「VLP」:B 給湯「SUS」:C 雑排水「VP」:B	5.0	0.20	-	-	
			6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
		2.4 信頼性				4.4	0.20	-	-	
			1	空調・換気設備	T-BC ControllerにてBCP対応かつ、吊配管	5.0	0.20	-	-	
			2	給排水・衛生設備	節水型器具採用 地下ビット設計 水槽二基分離 雨水・雑排水利用 受水槽に非常用給水栓	5.0	0.20	-	-	
			3	電気設備	非常用発電設備 電源設備は屋上設置 移動式電源車接続盤	4.0	0.20	-	-	
			4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
			5	通信・情報設備	通信手段多様化 NTT、QTnetの2社引込予定 MDF等は屋上設置	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高のゆとり	階高4.02m	4.3	0.30	-	-	4.3
	2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.13	4.5	0.30	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		4900N/m ²	5.0	0.58	-	-	
	3.3 設備の更新性			4.0	0.42	-	-	
	1 空調配管の更新性			5.0	0.30	-	-	
	2 給排水管の更新性		将来用スペース確保かつ、システム天井により仕上げ材を痛めるこ となく修繕・更新可能	3.8	0.40	-	-	
	3 電気配線の更新性		ケーブルラック、システム天井を採用	3.0	0.20	-	-	
	4 通信配線の更新性		ケーブルラック、システム天井を採用	4.0	0.20	-	-	
	5 設備機器の更新性			5.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		屋上にバックアップスペースを確保	5.0	0.10	-	-	
3.0	0.20	-	-	3.0	0.20	-	-	
4.0	0.20	-	-	4.0	0.20	-	-	
5.0	0.10	-	-	5.0	0.10	-	-	
3.0	0.20	-	-	3.0	0.20	-	-	
4.0	0.20	-	-	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		福岡市景観計画への配慮 緑化計画にて周辺環境との繋がりを創出 日照条件へ対応した植栽選定 食餌木の導入 灌水設備の配置	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物のまちなみへの調和 植栽による良好な景観形成 視点場からの良好な景観形成 丸柱緑化により歩行者目線で潤いのある空間を形成	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		複数の広場提供による地域貢献 建物内外を連絡させる緑化空間の形成 ITV(防犯カメラ)の設置 様々なイベント企画によるエリアの活性化	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		歩行空間へ風を導く配慮 日陰の形成 舗装面積の縮小 壁面緑化 空調室外機のほとんどを屋上設置 高温排熱の放出部を設置しない	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPi]/[BPIm] = 0.95	3.2	0.18	-	-	-	3.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEi]/[BEIm] : 0.53	5.0	0.51	-	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング		BEMS導入	4.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制		クラウド型エネルギー・マネジメントサービス(EM)の体制	5.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	-	4.2
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	-	4.0
1.1 節水		節水型器具採用	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水・雑排水利用	4.0	0.70	-	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		福岡市再生水利用下水道事業に関する条例に基づき、再生水を引 込む計画	4.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減		鉄骨強度F=355以上 BCP使用 鉄筋定着部へガス圧接・機械式接頭を採用	5.0	0.11	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		再生クラッシャラン	5.0	0.22	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ボード、ビニル床材、タイルカーペット	5.0	0.22	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロア、LGS工法	5.0	0.22	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.20	-	-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		不活性ガス消火設備(窒素ガス)	3.6	0.70	-	-	-	
1 消火剤		セラミライトエコG等	4.0	0.33	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.33	-	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	-	

LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率 = 61%	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮		3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止	燃焼機器不使用	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	行政指導はないが、雨水利用している	3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		4.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	自転車置場 立体および、機械式駐車場 荷捌き用駐車スペース 駐車場導入路を広く確保 急速充電対応、洗車スペース等	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」一部満たす 広告物なし	4.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	セレーション化(のこぎり型)された外装により光の反射を抑える	4.0	0.30	-	-	